

2 記録を読み取る

年齢別特徴を視点に～「感じる心」「考える力」～ 3・4・5歳児 富田林市立錦郡幼稚園

子どものなぜ？不思議を丁寧に捉え、楽しい遊びの中で友達と一緒に、探究心や好奇心を揺り動かし遊ぶ姿を捉え、根気強く取り組む姿を支援する。そこで「感じる心」と「考える力」が育まれていくことにより培われた「科学する心」が「確かな育ち」につながっていく。しかし、その「確かな子どもの育ち」は見えにくい。そこで、幼児が「概ね」辿るであろう一般的な道筋を全保育者が共有することで客観的に子どもの育ちを捉えることができるのではないかと考え、見えてきた「**発達していく特徴の姿**」を数年間通して書き出してみた。子どもの遊ぶ姿を細やかに見ていくことで、その都度プラスされたり見直したりしてきた。どこまでの可能性を引き出せるかの規準を保育者自身が見直したり、振り返ったり、予測を立てたりする場合に参考にする指標であり、この表に子どもを当てはめていくものではない。

年齢	感じる心 (幼児は瑞々しい感性でさまざまなモノ・コト・ヒトと出会う。それらに寄せる思いや興味・関心・愛着などを通して育まれていく心)	考える力 (ものごとに粘り強かかわり、自分なりに試したり、工夫したりしながら自らの考えや思いを表現、創造していく力や態度)
3歳児の特徴	① 初めて出会うモノゴトに興味をもつ。 ② 年長者や周りからの刺激を受け、まねしてみようとする。 ③ 興味をもって何でもとりあえずやってみたくなる。 ④ 自分なりに楽しむ。 ⑤ 他者に共感してもらったり、認められたりすることに心地よさを感じる。	① 諸感覚をとおして確かめようとする。 ② 自分本位のイメージをもってモノゴトと関わる。 ③ ものの本質を探究するまではいかず、そのものを使って遊ぶ用具として関わる。
4歳児の特徴	⑥ 新しい刺激に大きく反応しだす。 ⑦ 興味や関心をもってなんでもやってみようとする。 ⑧ 感動・驚きの感情が著しく発達してくる。 ⑨ 不思議と感じ、試したくなる。自分がやりたいだけ、何度も試したくなる。 ⑩ まわりの大人や友達に思いを伝え、共感してもらいたくなる。 ⑪ 思いを言葉だけでなく、手ぶりや実際にやってみることで伝えたいくなる。 ⑫ 共感してもらったり、認めってもらったりすることに心地よさを感じる。 ⑬ 友達のやっていることを意識しだす。 ⑭ やっているうちに答えがでてきて納得する。 ⑮ 友達のやっていることに興味をもつ。 ⑯ 友達のやっていることを自分なりに予想し、やってみようとする。 ⑰ 友達との共通点を喜び、つながりを感じようとする。	④ 自分なりの目的をもって関わろうとする。 ⑤ 1つのことにじっくりと関わるようになる。 ⑥ とりあえず、友達の様子をそのまま、まねてやってみようとする。 ⑦ 興味のあることをつぎつぎやってみる。 ⑧ 生活経験に、結びつけて考える。 ⑨ 物の性質を意識するようになり、自分なりの理由や結果を見付ける。 ⑩ 見付けたこと、気付いたことを話す。 ⑪ 見付けた自分なりの理由や結果をやってみる。 ⑫ 自分なりに予想する。 ⑬ 今までの経験や友達の行動から、いろいろ考えたことをやってみようとする。 ⑭ 予想したことを何度も再現する。 ⑮ 再現することで確認する。 ⑯ 確認することで納得する。
5歳児の特徴	⑱ 自然や物事に愛着をもってかかわろうとする。 ⑲ 友達と喜びを共感することでより楽しさを感じる。 ⑳ 「不思議」と感じたことを何度も試し、分かったことをまわりに伝えることが楽しくなる。 ㉑ 自分の思いや考えに自信をもつ。	⑰ 経験したこと、分かったことをもとに、予測を立てて試そうとする。 ⑱ 予測した結果だけでなく、予測外のことにも疑問をもち、試そうとする。 ⑲ 予測したことや調べたことを自分で試し、確かめたいくなる。

※抜粋

例えばP.3の事例「水が見えなくなったよ」では

- 4歳A児は、 ⑨不思議と感じ、試したくなる。 ⑤1つのことにじっくりとかかわるようになる。
 ⑮友達のやっていることに興味をもつ。⑩見付けたこと、気付いたことを話す。

<読み取り>

- ・友達のやっていることに興味をもつだけでなく、心の動きから相手に話したいという力につながる姿が相互の関連が見られる。

このような読み取りができる

以上のような読み取りを各年齢の事例について行うことで、以下のことが分かった。

- ① 「感じる心」と「考える力」は、相互に絡み合うことで体験の過程が豊かになる。
- ② 子どもは順序通りに発達していくのではなく、行きつ戻りつしながら成長していく。得手不得手や興味関心の有無、生活経験の違いでも大きく差がでる。その子らしい発達のしかたがある。
- ③ 新しいモノ・コト・ヒトとの出会いのスタートは必ずしも、また誰しもが年齢発達に合わせた段階からスタートするのではなく、今まで経験した経路をたどりながら思考していることがうかがえる。年齢が上がるごとにたどる経路のスピードが加速され、概ね発達年齢に即した段階までたどり着くように思われる。
- ④ 幼児期の成長には「感じる心」の比重が大きい。

主題に迫るために「感じる心」と「考える心」という明確な観点をもって記録を読み取り、記録の分析・考察を積み重ねて作成した表により、一人ひとりが、概ね辿るであろう道筋があることが見えてきます。このような園独自の手法（年齢別特徴を捉えた表）で記録を分析することで、「科学する心」の育ちを園の職員間で具体的にイメージし、共有することが期待できます。